

# LMcorsa Race Report

## Super GT 2018 Rd,5 Fuji GT 500mile



● H.YOSHIMOTO  
● R.MIYATA



● M.NITTA  
● Y.NAKAYAMA

8月4日 | 天候:晴れ | 気温:31度 | コース:FUJI SPEED WAY | 路面温度:44度(ドライ)



● H.YOSHIMOTO  
● R.MIYATA

### Qualifying Day Summary

前戦で3位に入ったSYNTIUM LMcorsa RC F GT3は連続の表彰台を狙って第5戦の富士スピードウェイラウンドに挑むが予選Q1でブレーキトラブルが発生してしまい23位となる長丁場の決勝レースは得意の追い上げで上位を目指す。

### Qualifying Day

シリーズ唯一の海外戦となるタイラウンドから約1カ月のインターバルを経て、AUTOBACS SUPER GTの第5戦「FUJI GT 500mile RACE」が富士スピードウェイで開催された。

富士スピードウェイでは毎年2回のSUPER GTが開催されていて、昨シーズンまでは5月が500kmの決勝レース、8月は通常の300kmとなっていた。だが、今シーズンは鈴鹿1000kmがSUPER GTのシリーズ戦から外れたこともあり、8月開催の今戦が500マイル(807km)と



長丁場の耐久レースとなった。SUPER GTでは700km以上のレースになると、獲得できるポイントが引き上げられる。通常の決勝レースは、優勝すると20ポイント、2位が15ポイント、3位が11ポイントだが、700km以上だと優勝が25ポイント、2位が18ポイント、3位が13ポイントと、大幅にポイントを積み重ねるチャンスとなるのだ。

タイでの熱戦を終えたマシンは、船積みされて7月末に日本に到着。エンジニアやメカニックは、そこから、わずか1週間の間で富士スピードウェイラウンドへの準備を行ないサーキットへ乗り込んだ。

## Qualifying Day

SYNTIUM LMcorsa RC F GT3 は、前戦のタイラウンドで予選 26 位から怒濤の追い上げを見せて 3 位を獲得。見事なレース展開で、RC F GT3 で初の表彰台を掴み取った。開幕戦こそポイント圏外となったが、第 2 戦の富士スピードウェイラウンドは 7 位、第 3 戦の鈴鹿サーキットラウンドは 5 位、第 4 戦のタイラウンドは 3 位と尻上がりに調子を向上して今戦に挑むことになる。ただ、合計で 21 ポイントを獲得しているため 42Kg のウェイトを積む必要があり、BoP（性能調整）でも前戦から +5Kg、第 2 戦に富士スピードウェイラウンドに比べると 25Kg の増加となっていて、厳しいレースとなることが想定された。



第 5 戦は、8 月 4 日（土）、5 日（日）の二日間に渡ってスケジュールが組まれていて、4 日には公式練習と予選、5 日には 500 マイルの決勝レースが実施される。

4 日は、予定通りの 8 時 40 分から公式練習がスタート。SYNTIUM LMcorsa RC F GT3 には吉本大樹選手が乗り込み、持ち込みのセットアップを確認する。多少の調整を加えたあとは、タイヤの比較などのメニューを消化しながら 15 周を走行した。1 時間 45 分の公式練習が半分を経過したところに宮田莉朋選手が SYNTIUM LMcorsa RC F GT3 のステアリングを握る。宮田選手は決勝レースを想定したセットアップを確認するとともにタイヤのフィーリングもチェックし、予定のプログラムをこなす。最後に再び吉本選手にバトンタッチして、二人で合計 37 周を走行。ベストタイムは、吉本選手がマークした 1 分 1 分 39 秒 254 で、公式練習を 21 番手で終えた。

### <予選>

公式練習後には 15 分間のサーキットサファリが実施され、ここでも吉本選手と宮田選手の二人が SYNTIUM LMcorsa RC F GT3 のステアリングを握って、最終調整を行なった。

サーキットサファリの後は、ピットウォークや併催レースを間に挟み GT300 クラスの予選は、14 時 35 分に開始。予選 Q1 は宮田選手が担当した。コースオープンとともに走り出した SYNTIUM LMcorsa RC F GT3 は、3 周に渡ってウォームアップを行ない 4 周目からアタックを開始。計測 1 周目に 1 分 39 秒 381 をマークし、さらにタイムアップを狙ってアタックを続け、セクター 1 と 2 を自己ベストで通過したが、ダンロップコーナーでブレーキトラブルが発生してしまう。マシンに損傷はなかったが、ブレーキがロックしてしまいタイヤにフラットスポットを作ってしまう。そのため、宮田選手はタイムアタックを中止してピットに戻る。残念ながら予選 Q1 はここで終了し、1 分 39 秒 381 のタイムで 23 番手となり予選 Q2 への進出を逃してしまった。

決勝レースは 23 番手からの追い上げとなるが、500 マイルと長丁場のため何が起こるか分からない。また、ピットを含めた戦略も重要となってくるので、チームはドライバー、エンジニアが一丸で最適なプランを立てて 500 マイルの耐久レースに挑む。

## Team Comment

---



Director : 飯田 章

富士スピードウェイは、コースレイアウト的に RC F GT3 に適しているとは言えないので、予選でもそれほど上位に入れるとは思っていませんでした。それを踏まえても、公式練習から予選を通して良い結果とは言えません。公式練習の内容から考えれば予選は Q1 を突破できるかギリギリだったはずで。しかし、アタック中にブレーキトラブルが発生してしまい、本来のパフォーマンスを発揮できませんでした。明日の決勝レースは500マイルと長いので、予選結果はあまり影響がないと考えています。ドライバーもチームもミスなくコンスタントに走ることができれば結果は付いてきます。



Driver : 吉本 大樹

公式練習の最初は、持ち込みのセットアップを確認するために乗ったのですが、コンディションと合わないところがあり、多くの時間を費やして調整を行ないました。その後は、タイヤの比較なども実施して、宮田選手と交代しました。公式練習の結果からすると予選 Q1 は厳しい状態となると思っていましたが、ブレーキトラブルもあり 23 位でした。しかし、ブレーキトラブルが決勝レースで発生しなかったことは運が良かったとも言えます。決勝レースは 500 マイルと長距離なので、戦略の幅を広いです。チームとしっかりと相談して、最適な戦略を採り上位を目指したいと思います。



Driver : 宮田 莉朋

富士スピードウェイは5月にもレースをしていて、そのときから比べると BoP とウエイトハンデでマシンがだいぶ重くなっています。約 70Kg のウエイト増なので、レース前から厳しい戦いになることは想定していました。公式練習では、決勝レースを想定したセットアップとタイヤの確認をして、予選は Q1 の担当となりました。予選は、3 周に渡ってウォームアップをしてアタックを開始しました。しかし、連続周回の 2 周目でブレーキトラブルが起きました。2 周目にアタックはセクター 2 までベストタイムを更新していたのもったいなかったです。決勝レースは、長距離なので何が起きるかわかりません。そのため予選順位よりも戦略などが結果を左右することになるので、チーム一丸となって戦っていきたいです。



● H.YOSHIMOTO

● R.MIYATA



## Qualifying Day Summary

中山選手が担当した予選Q1は、熾烈なタイムアタック合戦となり  
トップと0.7秒差ながらも17番手で、惜しくも予選Q2への進出を逃す  
長丁場の決勝レースは、定評あるチームワークで上位進出を狙う。

## Qualifying Day

シリーズ唯一の海外戦となるタイラウンドから約1カ月のインターバルを経て、AUTOBACS SUPER GTの第5戦「FUJI GT 500mile RACE」が富士スピードウェイで開催された。

富士スピードウェイでは毎年2回のSUPER GTが開催されていて、昨シーズンまでは5月が500kmの決勝レース、8月は通常の300kmとなっていた。だが、今シーズンは鈴鹿1000kmがSUPER GTのシリーズ戦から外れたこともあり、8月開催の今戦が500マイル



（807km）と長丁場の耐久レースとなった。SUPER GTでは700km以上のレースになると、獲得できるポイントが引き上げられる。通常の決勝レースは、優勝すると20ポイント、2位が15ポイント、3位が11ポイントだが、700km以上だと優勝が25ポイント、2位が18ポイント、3位が13ポイントと、大幅にポイントを積み重ねるチャンスとなるのだ。

タイでの熱戦を終えたマシンは、船積みされて7月末に日本に到着。エンジニアやメカニックは、そこから、わずか1週間の間で富士スピードウェイラウンドへの準備を行ないサーキットへ乗り込んだ。今シーズンからチーム体制を新たに初参戦することとなった「K-tunes Racing LM corsa」は、わずか3戦目の鈴鹿サーキットラウンドで優勝を果たし、第4戦のタイラウンドでは粘りの走行を



見せて10位でポイントを獲得した。第4戦を終えた時点でドライバーズポイントが7位、チームポイントが8位となっていて、シリーズランキングでさらに上位に入るためには、大量ポイントの獲得が可能な今戦で確実に結果を残したい。第5戦は、8月4日（土）、5日（日）の二日間に渡ってスケジュールが組まれていて、4日には公式練習と予選、5日には500マイルの決勝レースが実施される。

## Qualifying Day

---

4日は、予定通りの8時40分に公式練習がスタートした。K-tunes RC F GT3には、まず中山雄一選手が乗り込み、持ち込みのセットアップや路面コンディションなどを確認する。計測6周目には1分38秒951をマークし、セットアップの方向性が間違っていなかったことが証明される。その後は、数回のピットインを繰り返してタイヤの比較などを実施し、19周を走行して新田守男選手にバトンタッチする。新田選手は、決勝レースを想定したセットアップを試すなど19周を周回した。公式練習の結果は、中山選手がマークした1分38秒951がベストタイムとなり、14番手で終えることとなった。

### <予選>

公式練習後には15分間のサーキットサファリが実施され、ここでは中山選手が8周を走行して予選前の最終チェックを行なった。

サーキットサファリの後は、ピットウォークや併催レースを間に挟みGT300クラスの予選は、14時35分に開始。K-tunes RC F GT3には中山選手が乗り込んで、予選Q1を戦った。3周に渡ってウォームアップを行なった中山選手は、4周目にタイムアタックを開始して1分39秒154をマーク。翌5周目もアタックを続行し、1分38秒684までタイムを短縮する。このタイムを計測した時点では、予選Q2へ進出できる14番手以内に入っていたが、15分の予選時間の最後にタイムを更新するマシンが多く、惜しくも17番手で予選Q2への進出を逃してしまった。しかし、トップタイムからコンマ7秒のギャップだったこともあり、ライバル勢との差は少ない。決勝レースを想定した公式練習の走行では安定したラップタイムを刻んでいたため、500マイルの耐久レースをコンスタントに周回すれば、上位入賞の可能性もある。



## Team Comment

---



Director : 影山 正彦

予選の結果だけを見ると、やはり富士スピードウェイは、RC F GT3 に取って相性が良いコースとは言えません。それでも、決勝レースは500マイルと長丁場なので、的確な戦略を採れば上位へ進出することも可能だと思っています。明日は、諦めることなく我々のレースを行なって、ミスなく走っていきたいです。



Driver : 新田 守男

公式練習では多少のトラブルが出たこともありますが、決勝レースを見据えたセットアップができたと思います。昨シーズンに比べてリストラクターが小さいことやウエイトハンデが効いていて、一発のタイムは速くありません。そのため、予選Q1は厳しい戦いになると思っていましたが、その通りになってしまいました。しかし、トップのマシンともそれほど差がないので、決勝レースは表彰台を狙って走っていきます。



Driver : 中山 雄一

5月に富士スピードウェイで開催された第2戦よりは、セットアップを含めて良い状況になっていると感じています。ウエイトハンデやBoPの影響があるのでRC F GT3は、予選で上位に入るのは難しいと思っていました。それでも、タイヤのフィーリングやセットアップについては、決勝レースで上位を狙える可能性があります。500マイルの長いレースなので、明日はミスなくベストを尽くして走りたいです。



**ktunes**  
RACING

 **M.NITTA**

 **Y.NAKAYAMA**